



マダニが媒介します！ 人の命をおびやかす病気 SFTS

重症熱性血小板減少症候群

杉並区内で飼育されている外猫および外出する猫を対象に SFTS の感染状況を調査します。個別の健康状態を調べる調査ではありませんので、飼い主様および調査を行った獣医師名は匿名化され、個別での結果のご報告は原則致しません。(必要と思われる場合のみ連絡) 杉並区の疫学調査結果として取りまとめて公表されます。調査は少量の採血のみです。

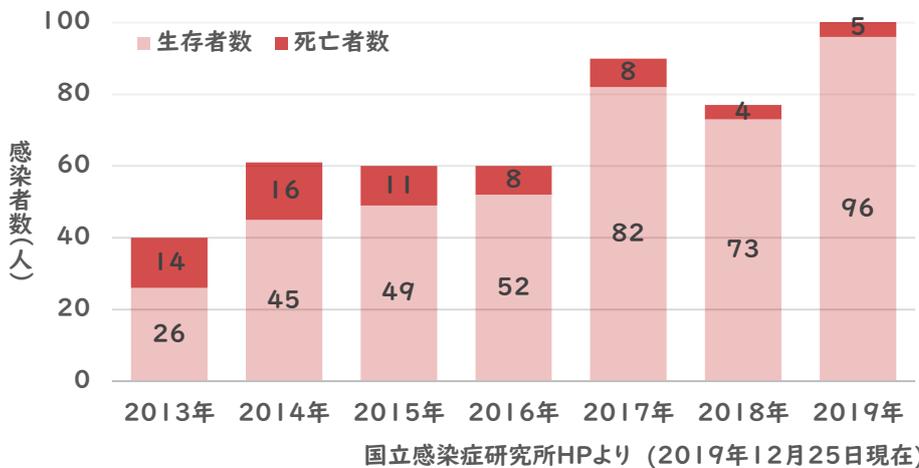
SFTS の調査にご協力ください。

SFTS (重症熱性血小板減少症候群) は 2013 年日本でも初めて死亡例が報告されたウイルスによる感染症。
マダニによりウイルスが媒介される。
現時点では有効なワクチン、治療法がない。

人がSFTSに感染したら・・・

潜伏期間	5～14 日間
症状	発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が多く、その他 頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出血症状などを起こす。
血液検査	血小板減少、白血球減少など
致死率	14% (2013～2019年)

人にも被害！ 感染者数は増加傾向



人への被害は
全国で、
497 症例、
うち 70 人が
死亡しています。

2019年12月現在

イヌやネコに感染したら・・・

これまでイヌ 7 頭、ネコ 120 頭での SFTS 発症が確認されています。

イヌ、ネコともに症状は人とほぼ同じです。

致命率が高く、イヌで 29%、ネコで 60～70%です。

さらに、発症動物から飼い主、獣医療関係者への感染がみつかっています。